

デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画
への質問状

安土城再建を夢見る会

2022年7月

去る令和 4 年 3 月に滋賀県文化スポーツ部文化財保護課安土城・城郭調査係執筆のもと、デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画(以下 基本計画)が発行されました。多方面からの検討が積極的になされ、安土城の価値・魅力を発信し、県及び地域の盛り上がりにつなげ、**観光振興を目的とした計画**であり、当会としても非常に期待を持って拝読させていただきました。

また、現存資料が非常に少ないことから、過去に多くの研究・考察がなされ、各視点から安土城復元に関するいくつかの案も出ていることを踏まえ、限定された情報に偏ることなく、フラットな視点で取り扱おうとされている努力もうかがうことができます。そのうえ、最新の技術を駆使することで、柔軟でより魅力的なコンテンツの提供を標榜されている点は、僭越ながら大きな期待が持てると評価しています。

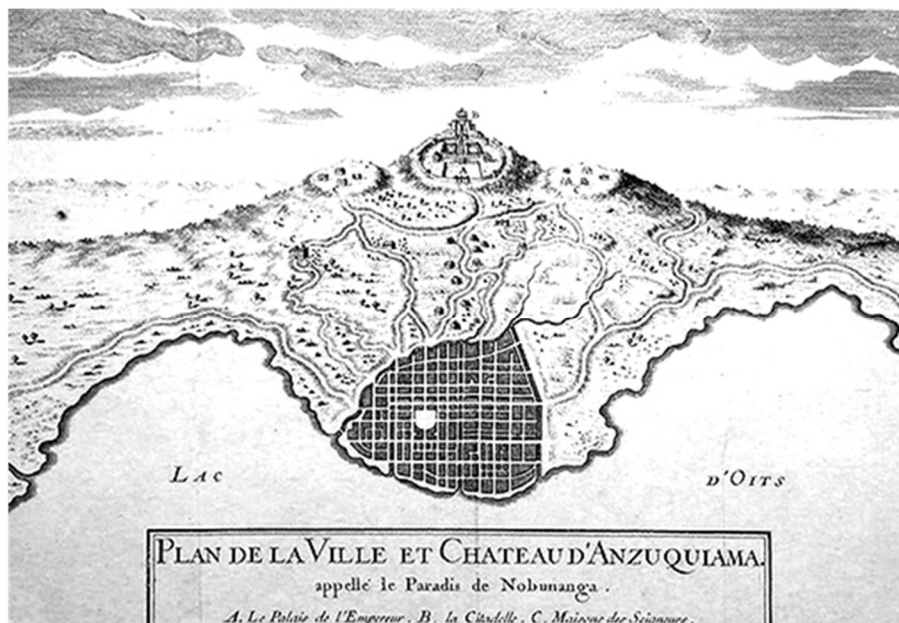
当会はこの基本計画の中で「第2章. デジタル復元にあたっての安土城の現状と課題」で述べられているいくつかの点について質問があります。次ページ以降に示します質問に対し、ご回答をいただけますことをお願い申し上げます。

質問1

1-3. 調査研究

(1)文献資料の記述、絵図の描写

⑨「HISTOR ET DESCRIPTION GENERALE DU JAPON」『日本国の歴史と概況』挿図
探検家でありフランス人宣教師であるピエール・フランソワ・ザビエル・ド・シャルルヴォワが1636年に刊行した『日本国の歴史と概況』の中の挿図。安土城と城下町を都市図的に描いていますが、現地形等にはまったく合致していません。（基本計画p27）

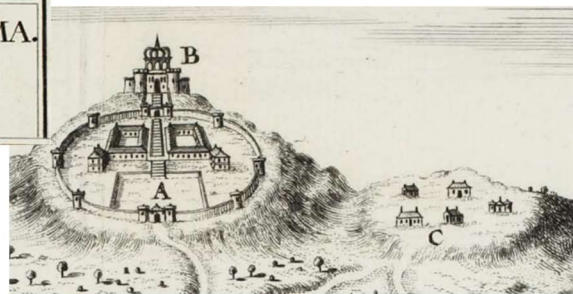


「信長の楽園 安土城下全図」 東京都立中央図書館 特別文庫室蔵

HISTOR ET DESCRIPTION GENERALE DU JAPONは、シャルルボア(1682-1761)が記したものであり、初版が1736年にパリで発行されたものです。彼は実際には日本へ滞在したことがなく、この本の内容は玉石混交と評価されていることも事実です。しかし、そのような欠点があるにも関わらず、彼の日本に対する興味の高さと研究により、フランスを中心にヨーロッパへ日本を紹介した功績は大きいとされています。

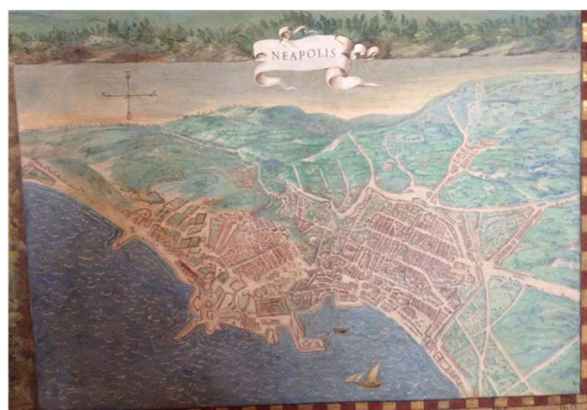
ところでこの図は、シャルルボアがバチカンへ寄贈された屏風絵を実際に見て書いたものと思われる。この図の下部に記されている注釈のようなもの(下図に拡大)ですが、「信長の楽園」とあり、かつA天皇の宮殿、B要塞(おそらく天守の意)、C領主(家臣)の館と書かれています。当時の西洋人にとって、日本の安土城が何を意味するものか分からなかったため、何らかの方法でこの脚注が屏風絵に添えられてあり、それをシャルルボアが転記したものか、あるいはシャルルボアが誰かから聞き及んで記述した可能性が高いものと思われる。

PLAN DE LA VILLE ET CHATEAU D'ANZUQUIAMA.
 appelé le Paradis de Nobunanga .
A. Le Palais de l'Empereur . B. la Citadelle . C. Maisons des Seigneurs .



また当時フランスでの城郭の絵(ないしは地図的なもの)

は,以下の図のように書かれているのが一般的であり、シャルルボアはフランス人に分かりやすくするために、あえてこのような描写(デフォルメ)の手法を取ったものかも知れません。

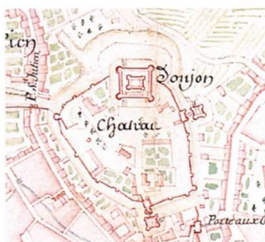


バチカン地図の廊下にある イタリア リミニやナポリの地図 2019年11月撮影

LE CHÂTEAU AU CENTRE DES RECHERCHES

LES ARCHIVES

Le château de Caen, du fait de circonstances particulières liées à son histoire est certainement l'un des édifices médiévaux de cette catégorie les mieux documentés en France. Les archives médiévales françaises sont une source d'une grande richesse, surtout pour le XIV^e siècle. Les archives royales britanniques nous donnent des compléments très importants pour l'ensemble de la guerre de Cent Ans. Enfin, devenu bâtiment militaire dès l'Ancien Régime, le château de Caen, est remarquablement documenté dans les archives de la Défense. Avant les travaux récents du château, un dépouillement systématique des archives et plus particulièrement celles du Génie conservées au Service Historique de l'Armée de Terre de Vincennes a été réalisé. L'article 8, le plus riche, regroupe les mémoires accompagnés de plans, établis par les ingénieurs du Génie de 1680 à 1875. L'étude archivistique permet de mieux appréhender l'évolution du château au cours de son existence, et de mieux prendre en compte son histoire pour une meilleure restauration.



Carte 1 :
Extrait du plan de Jacques Gamboust, 1657.
Musée de Normandie.

Carte 2 :
Extrait du plan « Le château et la ville de Caen ».
SHAT Vincennes.

Carte 3 :
Extrait du plan de Nicolas de Fer, 1718.
Musée de Normandie.

ノルマンディ公ウイリアムがCaenに築いた城の図

(出展:Le Château de CAEN, OREP Éditions 2011)

下の図は、当会が調査し昨年2月に出版した本(“信長⇨安土城と安土⇨八幡に秘められた真実とは”)に掲載したものです。

双方を比較すると、天主と本丸御殿は分離されており、大手道の諸侯の屋敷などは、比較的に現地地形によく似ています。秀吉の時代に廃城となり、屏風絵と当時の宣教師の話からしか情報がえられない中、このシャルルボアの図は貴重な資料の一つと認識しています。



「安土」という地の命名には諸説あることは事実です。一説によると信長が宣教師から「旧約聖書のエルサレム(平和の都市)をイメージして安土⇨平安楽土という地名をつけた」とも言われており、“appelé le Paradis de Nobunaga” すなわち、『信長の楽園』と言われている部分は、それを如実に示していると見るのが正しい見方とも思えます。

この図に関して、滋賀県が公式に認めて積極的に発信することで、欧州の方々にとっても観光振興にプラスに働きますし、ウクライナ情勢により平和へのメッセージが大切な状況下、願ってもいないコンテンツになり得ると考えます。

もし、安土城を再建する動きになれば、世界中の注目を浴びるものになるでしょう。せっかくの記録も、「現地地形等にはまったく合致していません」の一言で切りすてるのは、あまりにも勿体ないと思います。

以上のことから、「現地地形等にはまったく合致していません。」という結論に関し、その根拠や理由についてご説明ください。
そのうえで、基本計画では、この資料をどのような位置づけにされているか、見解をお聞かせください。

質問2

1-3. 調査研究

(1) 文献資料の記述、絵図の描写

⑩ 『天守指図』(静嘉堂文庫所蔵)

この指図(設計図)は、内藤昌氏(当時名古屋工業大学教授)が、全国の大工の家に伝わる古文書調査で発見したものです。加賀藩作事方池上家に伝来した江戸時代の写しで、指図には安土の名は記されていません。内藤氏は、天主台の形状や指図への書き込み、『信長公記』の記載との比較などから、安土城の指図と断定し復元する案を作成しています。指図の内容で最も特徴的なのは一階から三階まで中央部分が吹き抜けになっており、四階の中央に渡り廊下があること、地階中央に宝塔が描かれているという点ですが、一方でこの指図は写本ではなく後世に創作されたもので実際の安土城の指図ではないとする批判も多くみられます。現時点ではこの指図が安土城天主の指図であると積極的に評価する根拠はありません。(基本計画p27)

この最後の表現ですが、「現時点ではこの指図が安土城天主の指図であると積極的に評価する根拠はありません。」は、強い否定的見解を持っておられるように感じました。

他の文献資料や絵図に対しては事実を淡々と述べられているのですが、この指図に関しては少々ニュアンスが異なっています。

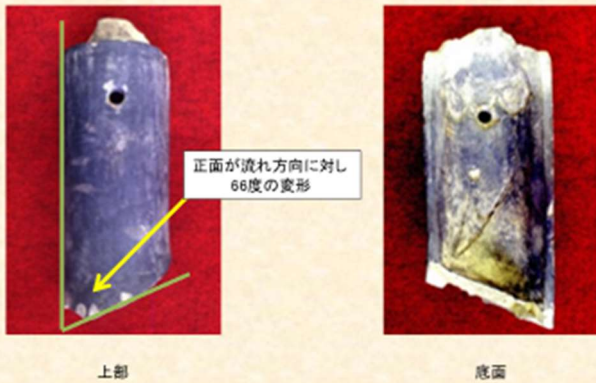
客観的に見ても、静嘉堂文庫所蔵の『天守指図』と天主台の遺構が酷似していることは事実です。加えて、内藤昌教授が「安土城の研究(上・下)」を国華987、988号で発表された後、天守指図には不可欠である斜め瓦の存在が明確になっています。

その存在に対し、2013年7月30日に、名古屋工業大大学院の河田教授等が、日本建築学会北海道大会で、「安土城天主内藤昌復元案の追考」という形で補強されています。(次ページ参照)

発見された瓦の枚数は全部で2枚と少ないため、その信憑性について疑問が生じているのかもしれない。しかし、このように型を決めて作られている瓦は、必要性があったことは自明です。単に1か所ないし2か所のみ必要であるならば、建築的には普通の直角瓦を現場で修正する方が現実的です。わざわざ斜めに作ったということは、相当数の枚数が必要であったであろうことは想像に難くありません。

この2枚の瓦の存在は非常に貴重かつ重要なものであり、これこそ第一級の資料として位置づけられるべきものと思います。今後の発掘調査の中で、その真実が明確になることを期待しています。

安土城天主-瓦当が斜めの丸瓦



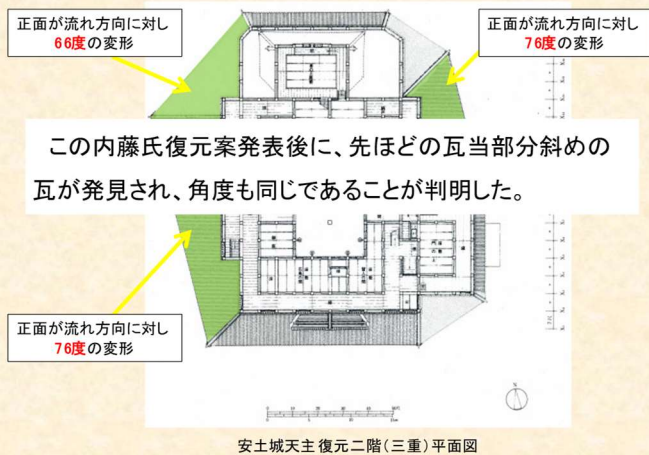
昭和42年に、下豊浦永町在住の安居昌広氏が天主台北東隅より発見したもの。
昭和56年5月に内藤昌氏が、安居氏が所有していたものを撮影。

安土城天主-瓦当が斜めの平瓦



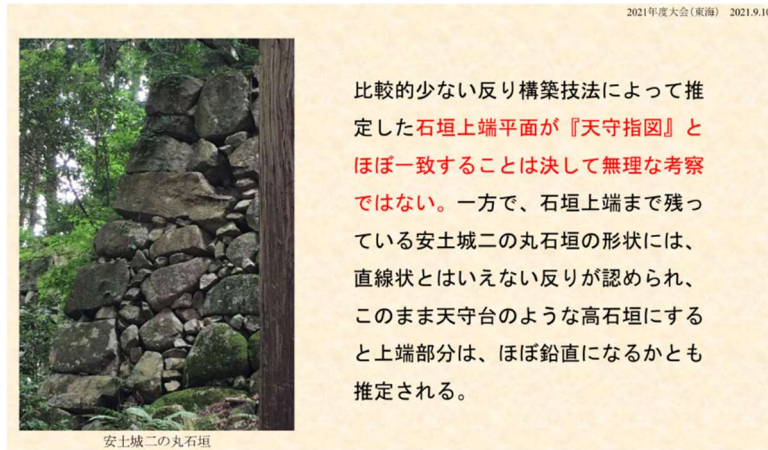
河田克博氏が、2013年7月30日 滋賀県立安城土考古博物館にて撮影。
当時、總見寺の加藤住職の許可を得るため、調査許可の正式手続きを経たのち、学芸員主任 高木叙子氏(当時 現在は主幹)立会いのもと撮影。
高木氏は、収蔵庫の中から見つけ出すのに、相当な時間をかけられて漸く見つけ出されたとの逸話もあり。

安土城天主-瓦当が斜めの丸瓦と平瓦



2013年9月 日本建築学会 北海道大会 名古屋工業大学大学院 河田克博教授 清水隆宏氏発表資料より抜粋

加えて、天主台石垣と天主第二重目の食い違いに関しても種々議論がなされています。河田克博名誉教授等が2021年の建築学会当会大会で、石垣上部の反りは石組みの技術的發展の初期の段階であり、全く反っていなかったとは断言できないと報告されています。



河田名誉教授の発表資料より
抜粋

以上のことから、「現時点ではこの指図が安土城天主の指図であると積極的に評価する根拠はありません。」というほど強く否定できる根拠はないと思われます。

当会は、この結論に至った背景を知りたいと思っています。

議論に参加されたメンバーの総意であるのか、あるいは一部の方の意見であるのか、議論の経緯も含めご教示をお願いします。

また、斜め瓦についての見解が一切述べられていない理由についてもお願いします。

経緯を正確に知るため、これに係る議事録も併せて開示いただけますと助かります。

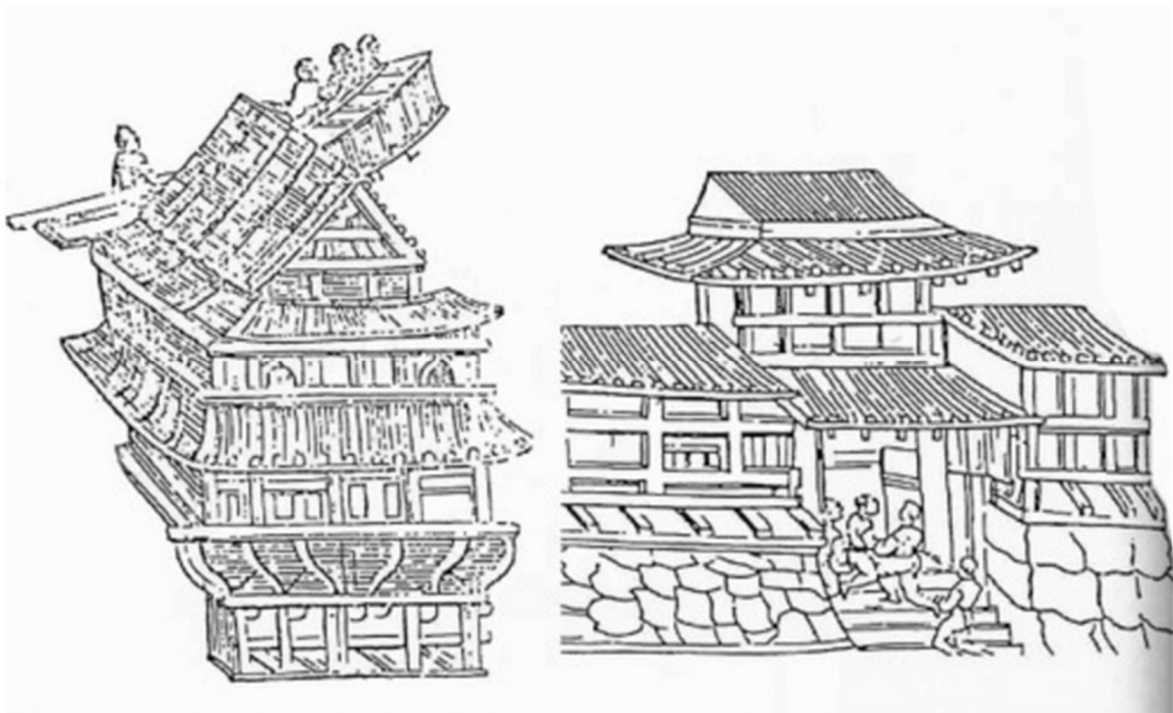
質問3

⑧ 『フィリップス・ファン・ウインゲによる素描』及び『古代神々の図像』挿図(活版)

フランドル地方ルーヴァンスの画家フィリップス・ファン・ウインゲが、1592年にヴァチカン宮殿のガッレリア(地図の廊下)で「安土山図屏風」をスケッチした素描があるという記録がありますが現存していません。また、それを後に版画として『古代神々の図像』の挿図として2点が活版されて出版されています。1点目は天主もしくは櫓の一部が描かれています。2点目は渡櫓門が描かれており、どの位置の建物かはわかりませんが櫓門の外観が真壁造りで下見板張であることが判ります。現在、最も信憑性の高い資料といわれています。(基本計画p27)

この絵は、画家ウインゲがバチカンの地図の間に展示されていた安土山屏風絵をスケッチし、その一部をカルタリが著書の挿絵のために木版画で写したものと伝えられているものです。とくに、左の図は天主という意見もありますが、特徴的な八角形となっておらず、その点では信憑性が低いともとれます。一方で、屏風絵には当然セミナリオも描写されていたであろうと考えられ、事実、セミナリオ跡のすぐそばには堀があります。その後ろの4人は、堀に浮かんでいる船上の天正遣欧少年使節というイメージで書かれているということであれば、一定納得もできると思います。

これも写しの範疇であることには変わりないのですが、基本計画では、他のシャルポアや天守指図と比較して、「最も信憑性の高い資料と言われています」とかなり肯定的な扱いをされています。その根拠をお聞かせください。



質問4

幻の安土城再建には、考古学的観点から、発掘や歴史の事実に基づいた検証が必要です。そのうえで、当時の木造建築技術並びに施工技術からの観点の議論も必要と思われます。当会は、2021年4月20日に三日月知事にお会いし、活動の進捗を報告させていただきました。その折に、安土城再建に向けては建築の専門家をメンバーに加えていただくよう検討をお願いした経緯もございます。

そこで、建築史に詳しい建築・施工の専門家を新たに本計画のメンバーに加えることはいかがでしょうか。それにより、再建という点でより現実に即した議論が深まることと思います。この点検討をいただくことは可能でしょうか。

質問5

20年ほど前に放映されたNHKスペシャル「信長の夢 安土城発掘」では、知事アドバイザーである小和田哲男先生も出演されていました。考古学の観点や、宗教の観点からも深い考察がされており、信長の宗教勢力に対するそれまでの悪い評価を大きく変える画期的な番組でした。この点は、小和田先生もコメントされており、それを「信長の夢」というタイトルに込めて、安土城の意味を語っておられます。

現在 基本計画は、文化スポーツ部文化財保護課が中心となって進められています。それゆえに、安土城のように一次資料が少ないものについては、発掘で得られた考古学的観点以外の資料や文献も参考にされ、当時の政治体制や世界観からも含めて総合的に検討をされた方がより深みのあるアプローチが可能になると思います。このような取り組みは、琵琶湖を中心とし、歴史的遺産に恵まれた「水と祈りの文化」を標榜する滋賀県に相応しいと感じます。この点について、お考えをお聞かせください。

質問6

当質問並びにご回答に関しては、当会のホームページにて掲載をしようと考えていますが、ご了承いただけますでしょうか。

最後に

当会は、発足以来安土城の再建案や当時の建築技術とともに、人々の宗教観にも焦点を当て独自に調査をしてきました。その結果、信長の中での天下統一の最終仕上げであった安土城は、政治的軍事的関係以外に、宗教に対する関わり合いも非常に深い関係があることが分かってきました。そしてその解明が、安土城再建に必要な一要素であることを確信するようになりました。この面でのアプローチは、安土の観光振興に向けても、大きな広がりをもって貢献すると信じています。

一方で、近江八幡市には天守指図をベースにした信長の館、安土城郭資料館などがあり、多くの方々にぎわっています。VR安土城及び模型などを見て納得される方もおられ、観光面ではプラスに働いています。基本計画により、AR, VRなどで新たな県主導のコンテンツを発信されると、当市の観光施設にマイナスの影響も危惧されるという声もございます。

但し、今回はあくまでも中立的な立場で、素朴に感じた疑問に対し質問をさせていただきました。

当会も、「幻の安土城再建」プロジェクトと同じく、安土、近江八幡、滋賀県の観光振興に少しでもお役に立ちたいという想いは同じです。

遠い先になるのかもしれませんが、安土城が再建される暁には、信長のユニークな発想による世界に類を見ない木造高層建築として、国内外に大きなインパクトを与えることは必至とみています。それを夢見て活動を継続的に発展させて行く所存でございます。

以上、当会の思いを述べさせていただき、本質問を締めくくります。

安土城再建を夢見る会